

2014年度就職状況－10月調査結果報告－

2014年3月卒業生の就職環境は、リーマンショックの鎮静化が如実に表れ、また異次元の金融緩和策による円安、「アベノミクス」効果による景況感の改善傾向を受け、大卒求人倍率 1.28 倍といわれる割には企業側の採用意欲の高まりが感じられ、学生側も例年より早い段階での内定獲得傾向が見られました。

2015年卒の現4年次生については、図1の通り大卒求人倍率が1.61倍に上昇しました。このことは、景況感のさらなる改善と来年度採用スケジュールに関する経団連の指針（3月採用広報開始、8月選考開始）が発表されたことから、今年度中に優秀な学生をできるだけ多く獲得する体制で採用に臨んだものと思われれます。

本学では、学生の進路状況を把握するため、卒業予定者の7月、10月、12月、2月時点での進路・内定状況について卒業予定者の約10%を対象としたサンプル調査を実施しています。

図2は、2013年・2014年3月卒業生と2015年卒業予定者の内定率を3年間比較した本学の調査結果ですが、本年10月時点での内定率は、前述のような企業の動きを反映して高い内定率を示しています。順調に推移すれば、卒業時の実態調査では2014年3月同様、高い決定率になることが見込まれます。

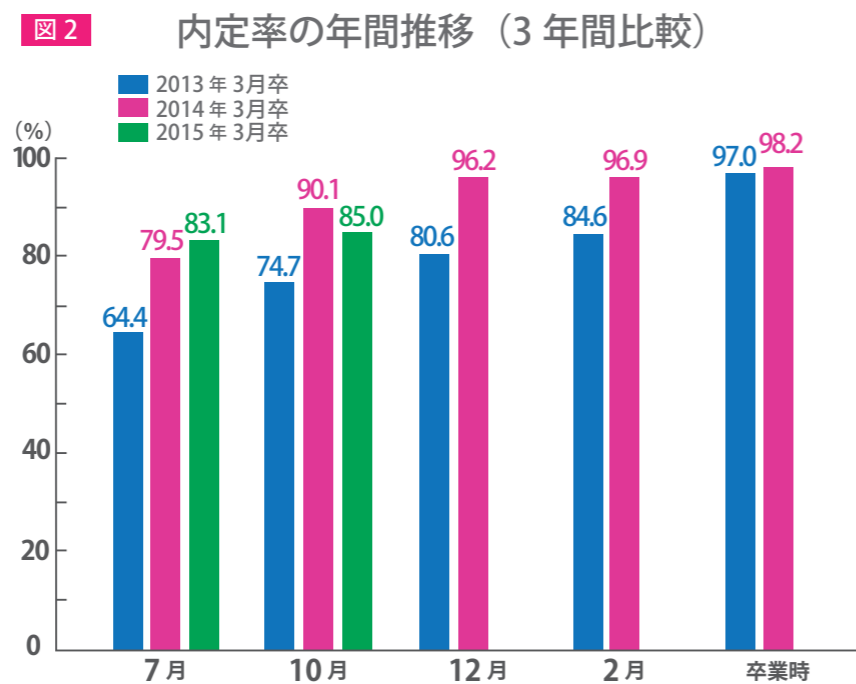
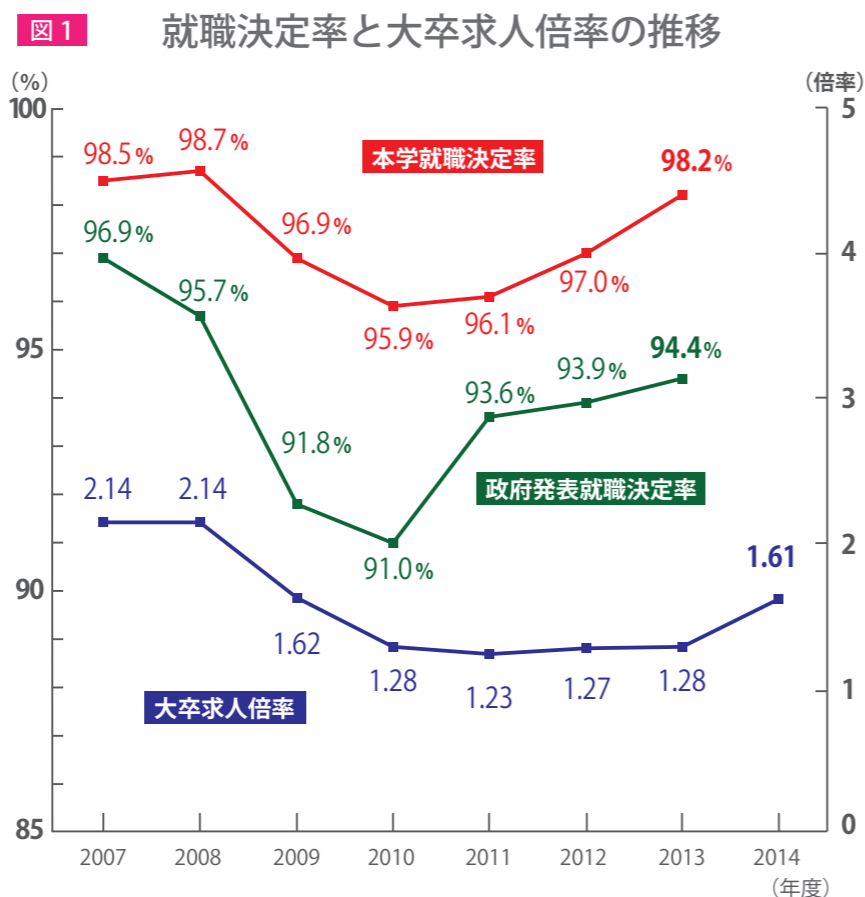


図3 10月サンプル調査内定率 (男女別3年間比較)

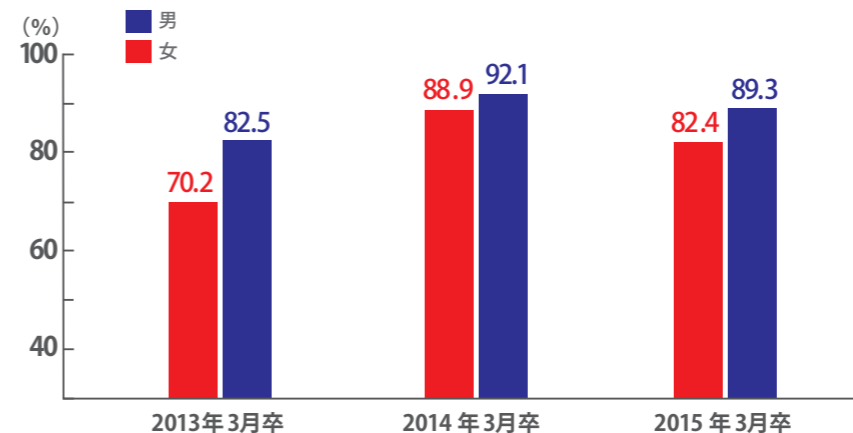


図3は10月時点での男女別内定率の3年間推移です。昨年に比べると、男女ともに若干低くなりましたが、依然高い数値であることは変わりなく、好調な結果となっています。

学員の協力による各種就職支援企画の展開

キャリアセンターでは低学年からのキャリア形成支援はもとより、学生一人ひとりに寄り添った面談を中心に据えた就職支援に重点を置きつつ、学生にとって満足度の高い就職活動ができるよう、就職支援企画を時期に応じて実施しています。なかでも学員の協力による各種就職支援企画では、学生と学員との交流を通じ、学生自身が「社会に出ること」「働くこと」をより具体的にイメージできる機会の創出を実現しています。

9月から10月にかけて実施した、「OB・OG交流会」には、約220名の学生が参加しました。第一部では本学学生の志向性が高い、金融・製造業・商社等で活躍する学員の方々をパネラーとしてお招きして、同窓の先輩ならではの切り口から、各業界に対する理解を深めるパネルディスカッションを行い、フロアーからも活発な意見や質問がありました。第二部では、様々な業界の世代を超えた多くの学

員からリアルかつ貴重な情報が学生たちに提供されました。

社会人と接する機会が少ない学生にとって、社会人の生の声を聞けることは大変貴重な機会であり、終了後の学生アンケートでは満足度94.5%と高い評価を得ています。

現在はインターネット等で膨大な情報収集が可能な環境にありますが、キャリアセンターでは将来を考えるうえで、バーチャルな情報に頼るのではなく、自分の目と耳と言葉を駆使して情報を集めてほしいと考えています。当交流会はその足がかりを担っており、実際にこれを契機にOB・OG訪問を行う学生が多く見られます。

学生の就職活動において、交流会やOB・OG訪問等、学員の皆さまにご協力をいただく機会が多々ありますが、引き続き、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

OB・OG交流会 <2014年度実績>

- 開催日程
 - 2014年 9月27日(土)
 - 10月 4日(土)
 - 11月29日(土)
- ①卒業生によるパネルディスカッション(学生のみ参加)
- ②卒業生と学生の交流会
- ③卒業生同士の懇親会
- 参加者数
 - 9月27日(土)
 - OB: 40名(35社)
 - 参加学生: 80名
 - 10月4日(土)
 - OB: 39名(37社)
 - 参加学生: 140名
 - 11月29日(土)
 - OB: 33名(30社)
 - 参加学生: 72名